

編集後記

向夏の候、会員の皆様方におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

まずは、『日本學刊』が、1997年の創刊以来、皆様の多大なご支持のおかげをもちまして、2021年に第二十四号を刊行できましたこと衷心から謝意を表したいと思えます。

創刊当時より、香港のみならず、海外各国・地域における日本語教育、日本研究、日本に興味をお持ちの方々の交流及び発表の場の創出を目指してまいりました。今号において、香港の外に、中国、日本、台湾からご投稿を賜りましたこと、嬉しい限りでございます。今後も、『日本學刊』がこのようにつながりと広がり役割を發揮していけたら幸いと思っております。

2020年に新型コロナウイルス感染予防によって様々な制約が発されていたにもかかわらず、新たな可能性の発見もありました。今号に掲載させていただいている玉稿の中にオンライン時代における教育現場の最新情報についての論文と報告があり、とても啓発的だと思っております。

最後になりましたが、2011年の第十四号から2020年の第二十三号にわたって、10年間『日本學刊』の編集を担当され、ご尽力をくださいました青山玲二郎先生に御礼を申し上げます。

皆様のご健康とご多幸を祈念し、新型コロナウイルスを乗り越え、新しい可能性を開拓していかれることを心より期待いたしております。

ご投稿を心からお待ちいたしております。

日本学刊編集委員会委員長

梁 安玉

2021年6月吉日